

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	分子性強相関電子系における量子液体の探索と理解
研究代表者	加藤 礼三（国立研究開発法人理化学研究所・加藤分子物性研究室・主任研究員） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>応募者は、有機伝導体の合成、物性について世界を先導する研究を行ってきており国際的に高い評価を得ている。本研究では、これまでの実績に基づき分子性強相関電子系における量子スピン液体、多層ディラック電子系における分子量子ホール液体、モットー転移近傍の非フェルミ液体の3つの研究課題を設定し量子液体相に関する理解を深化させることを目指しており、本研究を遂行し引き続き世界を先導する研究成果を上げることが期待される。</p> <p>3つの研究課題相互の関連性を更に明確に意識し、量子液体相を特徴づけるどのような新しい科学を展開できるかについて十分な検討が必要だが基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>